

平成28年度第1回農業大学校外評価委員会

議事録

I 日時 平成28年5月30日(月) 10:00~12:00

II 場所 大分県立農業大学校 会議室

III 参加者 外部評価委員

教育関係者	大分県高等学校教育研究会農業部会長 (大分東高等学校長)	田中 豊彦 氏
生産者	大分県指導農業士会長 大分県農業法人協会会長	藤野 渉 氏 増田 徳義 氏
生産者	地元女性農業者	古庄 京子 氏(欠席)
卒業生	大分県立農業大学校同窓会副会長	湯浅 正徳 氏
農業団体	大分県農業協同組合常務(営農担当)	坂本 茂則 氏
行政	豊後大野市農業振興課長	左右知新一 氏
行政	大分県中部振興局生産流通部長	三浦 敏郎 氏

農業大学校

校長、副校長、次長、農学部長、研修部長、教務課担当

IV 次第

1 開会 (進行: 渡辺次長)

2 校長あいさつ

平成28年度の目標につきましては後程詳しくご説明いたします。今年度の学校側の推進体制は、異動等により体制も大きく変わっています。不慣れな点はございますが、今年度の目標達成に向け最大限の努力をする所存でございます。委員の皆様方におかれましては、引き続きご指導とご支援を賜り、学校運営に役立ててまいりたいと考えておりますので、短い時間ではございますがよろしくお願いたします。

3 委員紹介

4 本校職員紹介

5 大分県立農業大学校外評価制度について(資料P2~P6)

副校長より説明

6 議事 (議長: 田中委員長)

(1) 報告事項

①平成27年度の重点目標に対する取り組み結果(資料P7~P12)

運営方針1「活気あふれる学園づくり」、運営方針2「質の高い教育の提供」、運営、方針3「新規就農者の確保」の取り組み結果について校長より説明。

《質疑・応答》

(三浦委員)

大分東高校から14名と多く入学しているが、一校からくる人数としては過去最大ではないかと思うが、要因・ポイントはなにか。

(大学校)

昨年まで大分東高校にいた立場でご説明すると、大分市内には、これまで農業系の高校がまったくなかった。新規に大分東高校に農業系を開設したため、中学校サイドからはひとつは新しいものへの関心があったこと。また大きな要因のひとつは、大分市内は非農家が多く、農業のマイナス情報よりも安心・安全、環境等に関心があるという点から農業に興味を持つ学生が入ってくることである。学生募集をし

ていても手応えを感じやすいということがある。大分東高校には2学科あるが、高校側は農大への入学10名以上という目標をもって指導にあたっている。

(田中委員長)

保護者の農業大学校見学等を行った。大人側の理解がないと進まない。農大のことを保護者に知って頂くことは大きい。

②平成28年度 大分県立農業大学校の概要 (資料P13～P15)

「学校運営体制」、「農学部学生の状況」、「研修部研修生の状況」について校長より説明。

(2) 審議事項

平成28年度 運営方針を踏まえた数値目標と主な対策 (資料P16～P17)

運営方針1「活気あふれる学園づくり」、運営方針2「質の高い教育の提供」、運営方針3「新規就農者の確保」の方針に沿って、今年度の具体的な取組と数値目標等について校長より説明。

運営方針1の数値目標「基礎学力を備えた入学生の確保」について副校長より補足説明

- ・農大入学後のアンケート調査では、高校からの勧めが44%、保護者からの勧めが22%、保護者知人・友人・先輩からの勧めが13%、ホームページ・ポスター等が13%、その他8%と、高校、保護者あわせ66%となっており、ここに力を入れて学生募集する。
- ・5月に県内全高校を一回訪問した。7月より2回目の訪問、年間4回訪問予定。
- ・進路ガイダンスは6月末までに5地区(大分2・中津・別府・日田)、また高校6校7件予定。
- ・5月26日に学校説明会を開催し、県内の高校より16校18名の先生が参加。初の試みとして、学生3名が取り組んでいるプロジェクト内容を説明した。
- ・後援会からも声があり、農協の集荷場や道の駅等人が集まる場所へのポスター掲示を検討している。

《質疑・応答》

(藤野委員)

運営方針2の主な対策2(1)にある「総合経営特別講座」とはどのようなものか。

(大学校)

(学校要覧P11を参照)各種科目があるが、このうちの選択科目の中に「総合経営特別講座選択学生」という区分の欄にある「農業簿記」から「流通研修」までの科目となる。卒業して即農業経営に役立てることができるカリキュラム、内容としている。2年生のうちの7名が選択している。平成26年度より開始し、優秀な学生に対し少し高度な内容を選択させている。

(坂本委員)

運営方針2の主な対策2(2)にある「大分大学との連携プロジェクト」とはどのようなことをしているのか。

(大学校)

「総合経営特別講座」の科目の一つである「農村社会学」がそれにあたる。大分大学の山浦准教授が講師となり、本年は臼杵にて直売所での農産物販売を大分大学の学生と一緒に体験し、直売所の運営について収支などを含め学習する予定である。

(田中委員長)

p14の入学人数について、二次入試はしているか。

(大学校)

水田・野菜コース以外で二次募集したが、二次募集応募者0であった。入学後の学生への進路選択についてのアンケート結果から、高校からのすすめが25%、保護者・知人からのすすめが15%であり、この二つをあわせて40%を占める。近くに「農大にいくといいなあ」というような子がいればぜひ進めていただいて学生の確保にご協力をお願いします。ポスターを作成しているので農協の選果場等身近なところに貼っていただきたい。

(左右知委員)

運営方針1の学生の募集について、豊後大野市からの学生は2～3名程度で推移している。大分市は非農家が多く、農業に対するマイナスイメージが薄いから多く入ってきているのではないかとのことであったが、豊後大野市は逆のイメージでいえるのかなと感じた。行政も農業の厳しい状況、マイナスイメージを打ち出してしまいがち。三重総合高校等からの農大進学を増やしたい。行政サイドの支援のあり方等アドバイスをいただきたい。

(大学校)

先日農業法人等との就職相談会を開催したが、41の法人等の参加があった。年々参加法人等数が増えてきており、地域の期待は高まっている。福祉関係など、学生の出口は広がってきている。また企業参入等の農園の管理者などオファーがある。このような状況を情報提供していけたらと思っている。

高大連携の県教委の事業で補助金を頂いており、三重総合高校の生徒に農大にきてもらいプロジェクト等取り組んでいる。高校生に対し、早めからのアプローチをしていきたい。高校生の移動手段としてバス代がかかるので、補助金はバス代に当てている。回数の制限があるが。

(左右知委員)

豊後大野市では小中学校の学農連携推進事業に平成22年度から取り組んでいる。三重第一小学校の5年生が市のバスを活用して農大の方へきて田植えを行っている。先程の学生の移動手段に市のバスが活用できないか確認する。

(田中委員長)

学生の確保について、保護者に農大にきていただくことが一番効果がある。

(大学校)

保護者に農大にきていただくのは今年はオープンキャンパスのみ。PTA視察研修にぜひ組み込んでほしいとの話を高校側にしていく。最近は学生の進路選択に保護者の意向が大きい。保護者へのアンケートでは、農大選択の理由として①苦勞させたくない、②子どもの意向、③費用が安い、となる。学生の確保については、保護者が「ここ(農大)ならいいのでは」というふうに見て感じてもらえることが一番効果があると考えている。

(田中委員長)

女子の学生が増加しているが女子寮等はどのような状況か。

(大学校)

今年入学した16名は、8部屋に二人ずつ入ってもらっている状況である。本年度空いている男子寮を改修し、女子寮にして対応する予定である。

(3) その他

創立50周年記念事業について(資料p18)

大学校より内容を説明。

以上